

■みたか若者（事業報告）

若者が人やモノゴトと出会いながら体験的に学んでいくための居場所づくりは、三鷹「Link」（2008年～）、西東京「We」（2008年～）武蔵野若者サポート事業（2014年～）の3か所に広がっています。本年度は、その3つの居場所の若者たちが出会い、学び合う取り組みがすすみ、たくさんの若者の学び（成長）のエピソードが生まれました。

また、中間的就労の仕組みづくりでは、自前の研修施設「風のすみか」の研修制度の再検討・見直しなど試行錯誤が続いていますが、それに加えてこれまで構築してきた企業との連携を土台にDTP(DeakTop Publishing／PCを使って印刷物を作製する仕事)の職場立ち上げにもとりかかりました。さらに、こうした仕事へと架橋するための新たな働き場モデルの追及とともに、若者を一方的に職場に適應させていくのではなく、若者とともに学び合いながら定着していく仕組みづくりの必要性を企業にも理解していただく取り組みにも力を入れました。とりわけ、複数の企業家団体に理解を示していただいたことは、今後につながる成果でした。

本年度は、若者を取り巻く背景について改めて理解するためのスタッフ学習会からスタートしましたが、結果的に、そうした作業が日々の面談やプログラムなど若者との対応はもちろん、保護者や企業、地域の関心を寄せてくださる方々への発信の基盤となり、

1. スタッフ学習会の実施

- ①若者を取り巻く社会背景や若者の生きづらさについて、文献の読み合わせと議論をし、家族セミナーで参加者に連続講座として報告（上期）
- ②また、若者たちとともに考える場も設定（下期）

2. 三鷹・武蔵野・西東京居場所間交流による出会いと学び合いの場づくりの追及

- ・三鷹八幡祭での模擬店参加（12名）
- ・ニローネにてLinkBBQ（15名）
- ・居場所合同運動会（18名）
- ・フットサルー和室交流会（12月から24名超）
- ・Linkクリスマス会（29名）
- ・「語る会」（7名／うちフォーラムで3人登壇）
- ・居場所合同活動報告会（35名）



3. 中間的就労の仕組みづくりの追及

①風のすみか

- ・集中訓練プログラムの実施（2クール／13名）
- ・生活困窮者自立支援制度の就労訓練事業(中間的就労)の認定を受ける
- ・研修への導入から就労（出口）までの「段階」の明確化

他プログラムとのコラボ企画やすみかOB会の発足、OBによる移動販売企画の実施など

②DTP Youth lab

- ・企業との連携のもと、集中訓練プログラムを実施（1クール／3人）
- ・NPO 通信の作製

4. 連携企業との協同による働き方を問い直す関係づくりの追及

- ① 第一経理や中小企業家同友会による企業家の学習会で企業家との意見交換・経験共有の実施
- ② 中小企業家同友会障害者部会にて中間的就労研究会が設置され、参加中

（トピックス）

昨年8月より交流スペース Link で行われている職場体験プログラム『アイ企画プロジェクト』に参加している K さん。当初は居場所に慣れることに必死で、特に他の取り組みへ参加することはありませんでしたが、11月の『居場所合同運動会』に向けた実行委員を担うことに。

———なんとなく引き受けた実行委員ですが、この事は自分にとって大きな転機となりました。実際に実行委員会に参加して、合同運動会の計画・準備をほぼ全て実行委員がやるのだと初めて知りました。学生の頃から、こういう催しの計画等は自分には向いていないと思い、避けてきた自分にとっては未知の体験でした。初めてで慣れない事とはいえ、一度引き受けた事を投げ出すという選択肢は自分の中に無く、慣れない事に苦慮しつつも、自分なりに頑張っただけで務めました。結果、合同運動会は胸を張って成功と言えるものになったと思います。そしてそれ以上に実行委員になった事で得たものは大きかったように思います。まず、一つが実行委員会を通して、アイ企画PJの人達との関わりが深まり、さらにリンクやWe、武蔵野の人達とも出会えたことです。それまでごく限られていた僕の人との関わりは大きく広がりました。そしてもう一つ、初めてやる事、慣れない事をやってみるのはそれが苦手なことだとしても楽しいのだと気付きました。僕は今まで生きてきた中で、自分が何かを失敗してしまうと、周りの人に失望され、見捨てられてしまうと考えようになっていました。それは、自分の性格に問題があり、その欠点を埋め合わせるためにはその他の点では失敗などせず、迷惑をかけないようにしなければならぬという考えからでした。結果として、僕は自分の慣れていない事、苦手な事に対してとても消極的になっていました。しかし、実行委員の役目をこなしていく中で何度も失敗し、みっともないところを見せてしまいました。それでも周りの人達は僕に対し失望することはなかったし、運動会に参加して楽しかったと言ってくれました。そんな事を経験して、失望され見捨てられるという恐怖も少し和らぎましたし、色々と失敗しつつも、楽しかったと言ってもらえるような運動会の実行委員の一員であれたことで苦手な事、慣れない事をするのもいいなと思えるようになりました。（Kさんの作文抜粋）

これまで消極的になっていた「出会い」から生じる葛藤に真摯に向き合い、前向きに歩み出そうとしている K さんの姿に感動を覚えました。また、はじめて合同運動会の担当となった職員が、自身の取り組み方に「これで良いのだろうか」と葛藤している姿もありました。しかし、この作文によって大いに救われ、スタッフとしても学んだに違いありません。そして、この作文を聞いた若者たちもまた、刺激を受けているようです。

■練馬事業部（事業報告）

「子どもから若者まで切れ目のない支援を」「練馬区の教育と福祉との架け橋となる」を目指して活動した27年度は、ねりまサポステと福祉事務所委託事業（訪問・勉強会・居場所）に加え、9月から新たに教育委員会より「居場所」と3つの「中3勉強会」の運営が始まった。これに伴い練馬で関わる子ども・若者も、活動に関わる協同ネットスタッフも増加している。新規事業創成期の混乱を乗り越え、今は新しい取組の道筋も見えつつある。

■活動内容

【1】ねりま若者サポートステーション

①教育との連携 ～子どもから若者まで切れ目のない支援～

- ・今年度より学校連携が中退者数の把握のみとなり、学校側との連携が取りにくくなったが、都立稔ヶ丘高校では各学年にてキャリア授業（今年度3回）及び中退者等を対象とした相談室「みのりサポステ」を月1回開所した。（来室実数8人）
- ・キャリア系プログラムとして、今年度初めて（株）リクルートホールディングス提供のプログラム「ホンキの就職」を実施した。また、ねりまサポステ独自のキャリア系プログラム「就活研究会」（3日間）を10月に実施し、その後練馬区等の主催で開かれた「面接会事前セミナー」「ヤング応援就職面接会」に接続した。一連の流れで就活・就職に結びつく若者が出たことから、1月も同様のプログラムを実施した。いずれも「共に学ぶ仲間がいる」ことを意識して内容を構成した。
- ・サポステの「プログラム振り返りシート」に漢字を使って文章を書けない若者が、「学び直し」プログラムで漢字の学習を行った。また、数字が苦手な若者を対象に「大人の算数教室」を開催した。
- ・高卒認定試験を2名の若者が受験し、共に全教科合格した。その後1名は就労に結びついた。

②地域との協同・連携 ～地域になくてはならない若者の拠点として～

- ・地元の「春日町本通り商店街」では今年度も毎月の「ふれあい市場」、10月の「春日町祭」に参加した。その他に、近隣の春日町図書館から「紙芝居講座」での読み手を依頼されたことをきっかけに、そこに参加した若者が図書館でのインターンシップを体験し、就労に結びついた。
- ・練馬駅前の「練馬子ども笑店街」主催者にパソコン講座の講師を依頼した（27回開催）。地域の活動に明るくサポステに地域活動の情報を提供していただいた。
- ・大泉地区にあるB型事業所のつくりっこの家とは、バザーの手伝いやリンゴ狩りなど初年度から関係性を築いている。今年度はつくりっこの家の紹介で、新たに陽和病院でのイベント参加の機会を得た。

③仕事・経済活動体験 ～仕事づくりの実現～

- ・毎月事務のインターンをお願いしている光栄商事では、インターンシップ後に研修生として受け入れられ、就労に結びついた。インターンシップ受け入れ先で就労に結びついた事例が、牛乳販売店、うどん店、翻訳代行業等であった。

■新規登録者数・来所者数・進路決定者数（平成28年2月現在）

相談	セミナー	進路決定者数
実人数 319名 / のべ 2502人	実人数 294名 / のべ 1908人	153名

【2】生活困窮世帯の子ども支援

① 訪問支援～孤立を越えて～

訪問支援の役割は、不登校または不登校の恐れのある子ども・若者に会い、本人の気持ちを丁寧に聴きとり、その子の『〇〇したい』という気持ちを大切にしながら、将来の自立のために必要なことを本人と考え活動へと発展させることである。その先に、学校や教育機関(再登校支援)、塾や勉強会の案内(学習支援)、居場所(ほっとる一む・風のアンサンブル・ぱれっと)や地域のフリースペースなどがある。風のアンサンブルやぱれっとといった自前の地域拠点ができたことにより、子どもたちに届けられる活動の場や社会資源が充実してきている。

② 勉強会(中3勉強会/中1・2勉強会/高校生勉強会)～学びと居場所づくり～

2015年9月から光が丘で始まった勉強会(Aクラス:週2回開講で9月スタート、B・Cクラス:週1回開講で10月スタート。各クラスの定員は35人)であるが、2016年1月現在の時点で平均7割(※6～8割)の生徒が継続して勉強会に通う。「学習する習慣がついてきた」「家より集中できる」という言葉が生徒から出てきている。勉強会を通じて友達を作り、勉強にそれほど積極的ではないけれども毎週通っていたり、勉強会終了時間間際に会場に来る生徒もいる。勉強だけが目的ではない、彼ら自身の居場所の一つになっている。

③ 居場所(大泉風のアンサンブル/光ヶ丘ぱれっと)～学びなおしと社会に踏み出す足がかりとして～

今年度光が丘ぱれっとは図書館の会議室で実施した。それも日によって会場も変わる(1日ごとに片づけが必要)という条件の中で、レジャーシートやアウトドア用折り畳みイスを用意し、くつろげる空間づくりを行った。逆に、図書館の中という立地を活かし、子どもの興味のあるアニメの雑誌を持ってきてその子が場になじめるように工夫したり、本から活動内容のヒントを得ることができた。また、すぐ近くに大きな公園があるため、そこでバドミントンやソフトバレーボールなどの運動を行った。

風のアンサンブルや光が丘ぱれっとの共通課題は、新規登録者数の少なさである。居場所通信を配布する等広報活動にも力を入れた。地域とのつながりづくりのため地区祭にも3回参加した。今後も頻繁に地域活動へ参加できるよう場を広げる。

①不登校の子どもへの訪問相談

登録者数	116名	訪問数	のべ1330人
------	------	-----	---------

②風のアンサンブル(高校年代の居場所)+ほっとる一む(小中学生の活動)

参加者数	のべ277人
------	--------

③勉強会(中3勉強会/中1・2勉強会/高校勢勉強会)

利用のべ人数	中3勉強会:1670人(春日町・石神井)+2282人(光が丘) 中1・2:142人 / 高校:236人
進路決定者数 (中3勉強会参加実数124人)	都全日63名,都定時9名,チャレンジ9名,エンカレッジ8名, 都商業5名,都工業10名,私全日3名,専修11名,特別支援2名,

■ 世田谷事業部（事業報告）

世田谷区青年の家は2014年度から教育部局から若者支援部局へと管轄をかえ、運営を当法人委託、「世田谷区立野毛青少年交流センター」としてリニューアルオープンした。

2015年度は若者たちの学びと社会参加の舞台を創り出していくことを追求していくことを目標とした。具体的には、①本館2Fスペース（食堂・厨房）を若者たちが集い、学習したり、創作活動のアイデアを練ったりするためのカフェテリア「（仮称）野毛青カフェ」へ、若者たち自身のアイデアで作り上げることを目標において展開する＝「カフェデザインプロジェクト」②1Fの小学生・中高生が集まるフリースペースを大学生世代の若者たちを中心に運営する「居場所づくりプロジェクト」の2本柱を据えて、若者がリアルな社会につながるプログラムを展開した。

■ 2015年度業務

1. 貸し館受付業務

【内容】

- ・ 社会教育施設時代の条例にもとづいて運営しているため、2015年度も施設の貸し部屋は従来通り実施。
- ・ 2,428名（12月末現在）の一般利用者（若者含む）が利用。

※プレ宿泊利用者 12団体 131名

2. フリースペース運営業務

【内容】

- ・ 従来の「青年の家」のロビーを利用したフリースペース運営。若者たちが仲間関係をつくりだす安心安全の居場所運営を目標とした。
- ・ 本年度は、大学生世代の若者（大学生世代居場所サポーター）がフリースペース運営を通じて、社会につながる学びを創り出す「居場所作りプロジェクト」の現場としての機能も担っている。

【成果】

利用者数は昨年度から飛躍的に増加。

→10,139名（12月末現在）内訳：幼児45名小学生3,995名中学生1,754名高校生2,027名大学生以上1,596名一般110名

※昨年度フリースペース利用者総数5,914名

3. プロジェクトの計画・運営

① 居場所づくりプロジェクト

大学生世代の若者がフリースペースを運営するプロセスにおいて自分や他者に出会い、社会につながる学びの創出をサポートするプロジェクト

【内容】

- ・ 大学生世代の若者（ガクボラ）によるフリースペース運営サポート
- ・ ガクボラミーティング（1回/月）の主催、ファシリテート
- ・ ガクボラ主催イベントの企画運営サポート

【詳細】

- ・ 4月に駒澤大学の萩原健次郎教授の授業にてプロジェクトを説明。また、当法人代表の授業受講者、世田谷ボランティアセンターに関わる学生等に広報。結果、12名が参加（2016.01現在）
- ・ 各自が週に一回程度、フリースペースに来所し、利用者の子ども・若者に対するワークショップを行っている
- ・ 毎月開催されるガクボラミーティングではイベントの企画や学習会等を実施している

② カフェデザインプロジェクト

社会への一歩を踏み出したいと考えている若者等が中心となり、本館2Fの食堂・厨房を若者自身の手で「のげ青 Café」につくり変えていく5月スタートの6ヶ月間プロジェクト（201601現在活動延長中）。

【内容】

- ・ カフェの調理を担当するクッキングチームと、内装および広報物制作を担当するデザインチームに分かれそれぞれの技術の初歩からの習得サポート
- ・ 食材の仕入れから広報、メニュー提供、会計までの運営プロセスづくりのサポート
- ・ 各チーム週2～3回の活動実施。毎回のスタートにはその日の体調や気分を自分で把握できるようになるための「What 's up map」の作成、終わりには1日の感情や感想を言語化する「ふりかえり」を行い、メタ認知サポート、体験の言語化サポートを行った。
- ・ 20150829のプレオープンを皮切りに1108まで毎週土曜日にカフェ運営を行った。
- ・ 本館改修にともない1108にカフェは解体。その後は、活動をまとめた「COCOIL本」の制作をしている

4. 「のげ青フェスティバル」の開催

【内容】

- ・ 地域のNPOや児童館と連携して開催する「地域向けの子ども祭り」は昨年引き続き行いつつ、2015年度中心的に取り組んだ2本の「のげ青若者プロジェクト」の報告会イベントとして実施

5. 青少年の地域行事への参加促進

【内容】

- ・ 地域の祭り等への参加

【詳細】

- ・ 20150719：おとどろきとどろき祭り（等々力商店会）
- ・ 20150927：野毛町会大神輿
- ・ 20151018：野毛古墳祭り COCOIL 出店
- ・ 20151213：等々力商店会もちつき
- ・ 20151219：玉堤小学校もちつき
- ・ 20151220：六所神社もちつき
- ・ 20160117：新年ふかさわ子ども大会

※ 町会を始めとした地域の方々に喜ばれ、のげ青活動を周知することができた

■ 社会的事業部（事業報告）

風のすみか（ベーカリー）

「顔を覚えられるくらい地域のリピーターを増やしたい」をコンセプトに地域の固定客、店舗売りあげ増加により経営の安定を目指した一年でした。パンの評判が良く、単価の高い国産パンが多く売れているため、店舗売り上げが大幅に伸びたことと、店舗の改装とキッチンカーを使ったオープンカフェの定着により、店が賑わい活気がでてきたことは、大きな成果と言えます。店舗の仕事が充実してきたため、研修生も「お客さんとのやり取りがうれしい」など人と関わる仕事の喜びを感じる機会が増え、地域社会の窓口として店舗が機能してきたと感じています。また、従来の三鷹市地域のイベント参加だけでなく武蔵野市の地域イベントに若者と参加し、パン屋としての認知だけでなく、団体の活動を理解してもらうことができたと思います。

<取組内容>

1. よりおいしいパンの追及

国産小麦粉を（はるよこい）に変更し、試作を重ね、価格の変更も行った。国産パンを目当てにくるお客様も増え、売り上げが伸びた。パンのラインナップでは地域のお客様が、毎日食べるパンを中心に国産パンを増やした。単価の高い国産パンの売り上げが好調で店舗全体の売り上げが伸びている。

2. 魅力的な店舗づくりの実施

店舗改装を行い、店が明るく入りやすくなった。オープンカフェも展開し、店舗前が賑わっていることで集客に繋がっている。

鯉のぼりや七夕の笹を飾ったり、ブルーベリー祭りでは、集プロ生が近所にチラシを配り、ブルーベリー飴づくりや輪投げなど行い大勢の人で盛り上がった。

3. 社会や地域との繋がりを広げる試み

- ・ 三鷹子ども事業部と工房スタッフで小学生の「パンプログラム」を実施した。
- ・ スタッフ、集プロ生全員でニローネのブルーベリー狩りに参加した。
- ・ 三鷹図書館のイベントに呼ばれ、OBメンバーが中心となって取り組み、キッチンカーからコーヒーを提供し沢山のお客様から嬉しい声掛けをしてもらった。
- ・ 武蔵野市のイベントに積極的に参加。（ゆとりえマルシェ、武蔵野北口マルシェ）

<出張販売> 丸紅、キュービー、エディカスなど

<地域のイベント販売> 東栄会祭り、三鷹図書館祭り、三鷹四小祭り、絵本の家、npo フォーラム、西久保祭り、武蔵野北口マルシェなど

<定期配達> 三鷹市役所、近隣保育園（13カ所）

すみか農場

昨年度の風のすみか農場はパン店舗への原材料供給を中心に地域の直売所や地域と協働しての地域活性化や定期的な農業プログラムの実施など、多岐に渡って活動してきました。新しい取り組みとして、風のすみかクラブを新たに立ち上げ、会員向け野菜セットの販売やイベントを年間通じて行ないました。また、ブルーベリーの収穫時期には大規模な摘み取りイベントを3回開催し、ワンデイカフェを運営し、来てもらった人たちと楽しい時を過ごしました。冬季にはジャム、漬物加工のプログラムを実施し、6次産業化への取り組みを行ないました。

<取組内容> 会員制販売のスタートと農場を使った研修制度

1. 農産物の生産・販売
2. 地域直売所の運営（～回）
3. 集中訓練プログラムの実施（約6ヶ月）
4. 市民提案型協働事業（相模原市）の実施
5. すみか倶楽部の運営（現在14名が加入。のべ45セットの野菜を送った）
6. 6次産業化へ向けての実践、ジャム生産1090個

『トピック』

今年度のすみか農場では半年間の研修プログラムを実施しました。3名の若者が参加し、農場での活動を通して力をつけ、全員新しい場所で職を見つけ卒業していききました。

農業体験プログラム（毎週実施）参加人数 のべ110名

農業体験イベント（ブルーベリー狩り・味噌作りなど）参加人数のべ190名